

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・片山・岡部・平林・大塚^c・内藤^c・合川^{c,d}・吉田^c

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- IAEA での核反応データセンター会議(6/17-19)に加藤、大塚が参加予定である。(加藤)
- IAEA に出張し、E022 を完成させた。(大塚)
- 年次報告書が完成した。(吉田)
- 今年度のコーディング作業計画を作成した。(吉田)
- IAEA が作成した EXFOR 検索システムを紹介する。(合川)

3: 議論

- 今年度コーディング作業計画について
今年度は 12 月までに 30 編のコーディングを行う。
新たな作業方法(レフェリーとチェック者とコーディング者による採録データの事前決定)を試験的に導入する。
- 論文の採録状況について
論文の採録状況(採録対象雑誌名、実験論文数、採録対象論文数等)に関する情報を収集する。
- CINDA に登録する論文について
日本国内で発行された雑誌またはプロシーディングから採録することとし、具体的な雑誌等については引き続き検討する。
- 医療データに関して
2 年前まで国内の医療データを収集していた天道氏(未来科学技術情報館)の意見を伺うこととする。
- 新規コードについて
提案：TRNSF-MOM(V-TYPE への登録)、KYY(Kyy component of polarization transfer)
承認：TRNSF-MOM、KYY

4: 次回

2003 年 5 月 19 日 18:30~